

## とてつもなく高いハードル

雪の朝に、学校に電話がかかってくると、「何かあったかな」と思っ  
てしまいます。生徒のけがや事故でなければよいが、と思いながら  
報告を受けると、今朝は真逆の内容でした。とてもうれしい情報が  
寄せられました。

電話の主は、釜戸町在住の匿名の女性でした。

「(国道に出るために、坂道で信号待ちをしていた)車がうごけな  
くなったところ、バスから北中の生徒が下りてきて、その車を押し  
ていました。その後、バスも動けなくなったので、生徒たちはバスも  
押そうとしていました。すごく素敵な光景だなと感激しました！」  
雪が積もった日に上り坂で停車した車は、その後動けなくなり  
ます。タイヤが滑って空転してしまうからです。恐らく北中生が助  
けた車とバスは、そういう状態だったのだらう思われます。

私はその生徒たちの話が聞きたかったので、昼休みに呼んで尋ね  
ました。来たのは、三人の三年男子生徒でした。

「信号が青になっても、バスの前の車がタイヤを空転させて進まな  
かったので、びっくりしました。『(車を押しに)行ったほうがいいか  
な』思ってたら、運転手さんが行きたそうな僕たちに気付いて『おっ、  
行くか』と言って扉を開けてくれたので、三人で外に出ました。窓  
ガラスをたたいて、僕たちが押しますと言いました。坂を上り切っ  
たところで、車の窓が開いて、運転していた方が『ありがとう！』と  
言ってくれました。」

彼らはいれしように話してくれました。行くばかりになって開き  
始めていた心の扉は、バスの扉と共に全開したのです。それが「とて  
つもなく高いハードル」を一気に飛び越えた瞬間でした。

「やろうと思った」と「やろうと思った結果やった」の違いはやった  
かやらなかったかだけの違いですが、ここに、その「とてつもなく高  
いハードル」があります。思いのレベルで止まるのか、それとも、思い  
が行動に発展するのか。「思いと行動で合わせて百点」ではなく、「  
思いで百点、行動で二百点」と言ってもよいと思います。

今朝車とバスを押しした三人は、一気に満点の三百点に達しまし  
た。だからこそ、それが見ていた人を感動させたのです。思いはあっ  
ても行動にまでつながらなかったら、後に残るのは「あの時やれば  
よかったなあ」という後悔です。人に感動を与え  
るのか、自分に後悔を残すのか……それを決め  
るのは、「やったかやらないか」です。

今朝はこの三人だけでなく、多くの「やろう  
と思った結果やった」生徒がいました。校舎周辺  
の雪かきに取り組んだ生徒たちです。この生徒  
たちも当然三百点に値しますね。雪が降るとわ  
くわくするのは、こういう素敵な姿がたくさん  
見られるからでしょうね。

(一月十四日記)



雪かきをする生徒たち